



独特の文化形態

北大東島は太平洋に浮かぶ絶海の孤島です。一九〇三年に八丈出身の商人玉置半右衛門によって開拓され、その後は沖縄県管轄になり沖縄出身者が住むようになりました。そのため八丈と沖縄の融合した独特の文化形態となっています。島の祭りでは八丈太鼓のほか、江戸相撲と沖縄相撲の両方が行われま

「もうちょっと健康のためにやせましようねー」。「あい、先生！ やせたら畑仕事できないさー」。診療所でのいつもの風景です。診察というより漫才をやっているような場面も多く、毎日が癒やしの雰囲気であふれています。

うえはら ^{しゅういち} 周一 27期生、2004年卒



北大東島の港。北大東島は船を接岸できないため、貨物も人もクレーンで移動する。

北大東診療所

【私の勤務地】北大東島は沖縄本島から東に約400kmの海上に位置する。人口約600人。1951年から、医師の助手である「医介輔」の診療が行われた。現在、診療所は沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの管轄下になっている。

ヘリで緊急搬送

診療所で十分な治療を行えない重症な患者さんは、沖縄本島へ緊急ヘリ搬送となります。専ら自衛隊ヘリを使い、沖縄本島から添乗してくる医師を依頼しなくてはなりません。要請から

「先生、〇〇さんまたスナックで飲んでいたよ」。「エーホント？ 僕にはもうお酒は飲んでないって言うていたのに！」。漫才は終わりそうにありません。(次回予定は京都府)

癒やしの雰囲気にあふれ

「いつもはのんびりした診療ですが、急患が発生することもあります。ある日の午後、「せきなー？」と言う中年の男性が来

ました。診察をしてみるとどうも様子が変です。汗をびっしょりかき、顔も足もパンパンにむくんでいます。

島民は医師一人、看護師一人という診療体勢を理解してくれていて、急患が発生すると搬送時には治療を手伝ってくれます。幸いにもこの患者さんは沖縄本島の病院に迅速に搬送でき、大事には至りませんでした。

「前にもあったよ」。さらに、よく聞いてみると、心臓に持病があり、たくさん薬を処方されていましたが、最近飲んではなかったとのことでした。呼吸は荒く、酸素の状態も思わしくありません。レントゲンなどの検査を行った結果、診断は重度の心不全でした。離島での医療の限界を感じる瞬間です。

「仕事でも息が苦しくて、足は二週間前から腫れてきたかな」。前にもあったよ。さらに、よく聞いてみると、心臓に持病があり、たくさん薬を処方されていましたが、最近飲んではなかったとのことでした。呼吸は荒く、酸素の状態も思わしくありません。レントゲンなどの検査を行った結果、診断は重度の心不全でした。離島での医療の限界を感じる瞬間です。

到着まで二時間近くかかり、夜間や悪天候のときはそれ以上かかりがちです。空港へは村役場のバン(島の救急車)で移動します。